

CA Configuration Automation®

リリース ノート

r12.8



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、

(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このドキュメントでは、以下の CA コンポーネントおよび製品を説明しています。

- CA Network Discovery Gateway (CA NDG)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA BI (CA Business Intelligence)

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章：概要	7
第 2 章：サポートされるオペレーティング環境	9
CA Configuration Automation サーバ	9
CA Configuration Automation データベース	10
CA Configuration Automation グリッド	10
CA Configuration Automation エージェント	10
Network Discovery Gateway	12
第 3 章：システム要件	13
プリインストールされているデータベース	14
SQL Server 認証設定	15
Java 仮想マシン	15
[画面のプロパティ] - [設定] (Windows)	16
ネットワーク	16
Processor	17
メモリとディスク領域	17
Web ブラウザのサポート	19
CA EEM サーバのサポート	19
ストレージエリア ネットワーク (SAN) マネージャ ソフトウェア	20
周辺装置	20
第 4 章：新しい機能および拡張機能	21
CA Configuration Automation 管理プロパティは、Catalyst グループに入力されます。	22
日付および時刻の形式の設定	22
一般的なユーザ インターフェースの拡張	22
IBM Storwize V7000 ストレージデバイスの検出と管理に対応	23
IP アドレスのインポートでのワイルドカードとサブネット マスクのサポート	24
包含リストでターゲットにされているサーバだけへのネットワーク ディスカバリの制限	24
新規および更新されたブループリント	24
[コンプライアンス] タブで使用可能な新しいルール グループ	27
リモート エージェント インストールの変更点	27
サポートされている CABI バージョン	28

* と ? のサポート ファイル インジケータとしてのワイルドカード	28
CA Configuration Automation サーバ と CA Catalyst サーバの接続状態のテスト	28
Catalyst サーバ情報の表示	28
拡張されたログの表示	29
エラーが発生した CI を Excel スプレッドシートへエクスポート	29
WMI プロキシタイプによる、プロキシサーバを経由した CA Configuration Automation サーバおよびターゲットサーバ間の通信のサポート	29
WMI ディスカバリの制限	30
WMI プロキシおよび SSH プロキシのディスカバリの制限	30
WMI と Telnet ディスカバリの制限	30
ビジュアル ビューの拡張機能	30
[サービス] タブの [サーバ テーブル] ビューの拡張	30
 第 5 章: 発行済みの修正プログラム	 31
 第 6 章: 各国語のサポート	 33
 第 7 章: ドキュメント	 35
 付録 A: 使用条件	 37

第 1 章：概要

このドキュメントには、このリリースの **CA Configuration Automation** の新機能および拡張機能が記載されています。また、インストール要件および考慮事項、製品ドキュメントの概要、および [CA テクニカル サポート \(P. 3\)](#) への問い合わせに関する情報も含まれています。

第 2 章：サポートされるオペレーティング環境

この章では、さまざまな CA Configuration Automation コンポーネントによってサポートされているオペレーティング環境について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA Configuration Automation サーバ](#) (P. 9)

[CA Configuration Automation データベース](#) (P. 10)

[CA Configuration Automation グリッド](#) (P. 10)

[CA Configuration Automation エージェント](#) (P. 10)

[Network Discovery Gateway](#) (P. 12)

CA Configuration Automation サーバ

CA Configuration Automation サーバソフトウェアのインストールは、以下のオペレーティング環境でサポートされています。

- Microsoft Windows Server 2008（32 ビット版と 64 ビット版）
- Microsoft Windows Server 2008 R2
- Microsoft Windows Server 2012
- Novell SUSE Linux 9、10、および 11（32 ビット版と 64 ビット版）
- Red Hat Enterprise Linux 5 および 6（32 ビット版と 64 ビット版）
- Solaris 9 および 10（32 ビット版と 64 ビット版）

注：CA Configuration Automation サーバには、可能であれば 64 ビット オペレーティングシステムの専用サーバを使用してください。

CA Configuration Automation データベース

CA Configuration Automation データベース ソフトウェアのインストールは、以下のデータベース サーバ上でサポートされています。

- Microsoft SQL Server 2008（現在のパッチを使用）
- Microsoft SQL Server 2012
- Oracle 11g（Solaris、Linux、AIX、および Windows のみ）

注：可能であれば、データベース サーバには専用サーバを使用してください。

CA Configuration Automation グリッド

以下の動作環境は、CA Configuration Automation Grid ソフトウェア インストールをサポートします。

- Microsoft Windows Server 2008（32 ビット版と 64 ビット版）
- Microsoft Windows 2008 Server R2
- Microsoft Windows Server 2012
- Novell SUSE Linux 9、10、および 11（32 ビット版と 64 ビット版）
- Red Hat Enterprise Linux 5 および 6（32 ビット版と 64 ビット版）
- Solaris 9 および 10（32 ビット版と 64 ビット版）

注：可能であれば、64 ビットのオペレーティング システムのバージョンを使用してください。

CA Configuration Automation エージェント

AIX 5L v5.3（32 ビット版と 64 ビット版）、AIX v6.1（32 ビット エミュレーションモード）、および AIX v7.1（64 ビット版）オペレーティング環境は、CA Configuration Automation エージェント ソフトウェアのインストールをサポートしています。

- CentOS Linux リリース 5（エージェント ホストに `compat-libstdc++-33` および `libXp-1.0.0-8.1.el5` コンポーネントのインストールが必要）
- Debian 6.0.1

- HP-UX 11i (32 ビット版と 64 ビット版)、HP-UX 11i v3 Itanium および PA-RISC (32 ビットおよび 64 ビット エミュレーション モード)
- Microsoft Windows Server 2003 SP2 以降、Windows 2008 Server (32 ビット版と 64 ビット版)、および Microsoft Windows 2012
- Oracle Linux 4、5、および 6 (4.8 x64、5.7 x64、6.2 x86/x64 で動作確認済み)
- Red Hat Enterprise Linux 4、5、6 (32 ビット版と 64 ビット版)
- Solaris 8、9、10 (32 ビット版と 64 ビット版)、および 11 (Sparc および Intel x64)
- SUSE Linux 8、9、10 および 11 (32 ビット版と 64 ビット版)
- Ubuntu Linux バージョン 12、13 (32 ビット CCA エージェントが動作するには、64 ビット マシンに ia32-libs をインストールします)

注: CCA エージェントは Ubuntu 12.10 x64 および Ubuntu 13.04 x86 で動作確認されています。

CA Configuration Automation エージェントは、インストールされているサーバ (CentOS Linux を除く) 上で、データベースを呼び出すことができます。次の表に、各 CA Configuration Automation エージェント プラットフォーム (左側の列) が呼び出すことができるデータベースのリストを示します。

エージェント データベース接続性	Oracle DB 11g	Microsoft SQL 2008	Microsoft SQL 2012	Sybase ASE 15	DB2 9.5	MySQL 5.1	Postgres 9
Solaris 10				X		X	
Red Hat Enterprise Linux 5 x86 (64 ビット版)				X		X	X
Red Hat Enterprise Linux 6 x86 (32 ビット版)						X	X
Windows 2008 32 ビット版	X	X		X	X	X	X
Windows 2008 64 ビット版	X	X	X		X	X	X

エージェント データ ベース接続性	Oracle DB 11g	Microsoft SQL 2008	Microsoft SQL 2012	Sybase ASE 15	DB2 9.5	MySQL 5.1	Postgres 9
Windows 2012 64 ビット 版	X	X	X		X	X	X

注: Oracle 11g 32 ビット アプリケーションは、64 ビット オペレーティング システム上に 32 ビット 互換モードでインストールされます。

Network Discovery Gateway

以下の動作環境は、Network Discovery Gateway (NDG) ソフトウェア インストールをサポートします。

- Microsoft Windows Server 2008 (32 ビットおよび 64 ビット プラットフォーム上の 32 ビット 互換モード)
- Microsoft Windows Server 2008 R2
- Microsoft Windows Server 2012

第 3 章：システム要件

ソフトウェアをインストールする前に、「サポートされるオペレーティング環境」セクションで定義されているように、サポートされているデータベースを使用してサポート対象のプラットフォームにインストールしていることを確認します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[プリインストールされているデータベース](#) (P. 14)

[SQL Server 認証設定](#) (P. 15)

[Java 仮想マシン](#) (P. 15)

[\[画面のプロパティ\] - \[設定\] \(Windows\)](#) (P. 16)

[ネットワーク](#) (P. 16)

[Processor](#) (P. 17)

[メモリとディスク領域](#) (P. 17)

[Web ブラウザのサポート](#) (P. 19)

[CA EEM サーバのサポート](#) (P. 19)

[ストレージエリア ネットワーク \(SAN\) マネージャ ソフトウェア](#) (P. 20)

[周辺装置](#) (P. 20)

プリインストールされているデータベース

CA Configuration Automation は、ブループリントおよびアプリケーション関連のデータを格納するためにリレーショナル データベースを使用します。既存の Oracle または Microsoft SQL Server 環境内にデータベースを作成できます。要件は以下のとおりです。

- CA Configuration Automation サーバインストール プログラムを実行する前に、ライセンスを付与されたデータベース ソフトウェアがインストールされている。
- CCA Server のインストール中にデータベース インスタンスと管理者 ユーザを作成できる。
- インストールまたはアップグレードを実行するユーザに以下のデータベース ユーザ権限があることを確認します。

Microsoft SQL Server ユーザ権限

- 最小インストール権限 : dbcreator
- 最小ユーザ権限 : db_owner

Oracle ユーザ権限

ユーザには、表領域に対して領域が割り当てられている必要があります。ユーザに RESOURCE ロールが割り当てられている場合、そのユーザには unlimited tablespace 権限が付与されます。ユーザに RESOURCE ロールが割り当てられていない場合は、以下のように alter コマンドを使用して、領域を割り当てる必要があります。

```
alter user cca quota unlimited on CCADATA;  
alter user cca quota unlimited on CCAINDEX;
```

以下の権限が必要です。

- CREATE PROCEDURE
- CREATE SEQUENCE
- CREATE SESSION
- CREATE TABLE
- CREATE TRIGGER
- CREATE VIEW

データベースのタイプにかかわらず、CCA Server のインストール中にデータベース スキーマに接続する場合、およびデータベース スキーマを作成または更新する場合、以下のデータベース関連の情報が必要です。

- CCA Database ユーザ名
- CCA Database パスワード
- データベース サーバ名
- データベース名（Microsoft SQL Server を使用している場合）または Oracle Service 名（Oracle データベースを使用している場合）
- CA Configuration Automation サーバ のインストール中にデータベース ユーザを作成することを選択する場合、データベース インスタンスの作成が許可された管理者のユーザ名およびパスワードが必要

SQL Server 認証設定

Microsoft SQL Server 上で CCA Database を作成する場合、SQL Server の認証設定を確認する必要があります。

注：Windows のみではなく SQL Server および Windows の認証を使用するようにしてください。正しい認証が設定されていない場合、CCA Database の作成は失敗します。

SQL Server の認証設定を確認する方法

1. SQL Server Enterprise Manager で [SQL Server グループ] を展開します。
2. サーバ名を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
3. [セキュリティ] タブをクリックします。
4. [認証] で、[SQL Server] と [Windows] が選択されていることを確認します。

Java 仮想マシン

CCA サーバをインストールするときには、インストールプログラムによって、テスト済みで、CCA サーバとの互換性が検証済みである Java VM バージョンのインストールが推奨されます。既存のインストール済みの Java VM を使用する場合は、バージョンが 1.6 以降であることを確認します。

注: Java VM の要件は、CCA エージェントのインストールおよびアンインストール操作にのみ必要です。Java VM は、通常のエージェント操作には必要ありません。

CCA エージェントのターゲット サーバに Java VM のバージョンがすでにインストールされている可能性があるため、CCA ディストリビューション DVD では 2 つの異なるエージェント インストーラを提供します。1 つのバージョンでは Java VM (agentvm) をインストールし、もう 1 つのバージョンでは Java VM (エージェント) をインストールせずに既存の Java VM の検索と使用を試行します。

注:

- インストール プログラムが一般的な場所にインストールされなかった場合、既存の Java VM が見つからない可能性があります。インストールが失敗した場合、CCA エージェントをインストールするには agentvm を使用してください。
- VM のないリモート CCA エージェント インストールについては、ターゲット マシンに JRE 1.5 以降がインストールされていることを確認します。

[画面のプロパティ]-[設定] (Windows)

Windows サーバ上でインストールを実行するモニタの [画面のプロパティ] - [設定] では、256 色以上に設定する必要があります。これは、インストーラ ユーザ インターフェイスが正しく機能するための要件です。

Windows サーバ上でインストールを実行するモニタで 256 色以上の設定ができない場合は、CA のサポートに回避策をお問い合わせください。

ネットワーク

イーサネット 10/100 Base-T またはギガビット イーサネット NIC (network interface card、ネットワーク インターフェイス カード) 経由のネットワーク接続が必要です。

Processor

以下の表に、CA Configuration Automation および関連するコンポーネントに必要な最小プロセッサを示します。

コンポーネント	Processor
CA Configuration Automation サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA Configuration Automation データベース を別のコンピュータに配置する場合は 2 GHz の Dual-Core プロセッサが 1 つ ■ CA Configuration Automation データベース を同じコンピュータに配置する場合は 4 GHz の Dual-Core プロセッサが 2 つ <p>注: 専用の CCA サーバを使用することをお勧めします。</p>
CA Configuration Automation データベース	<p>3 GHz の Dual-Core プロセッサが 2 つ (ネイティブ データベース ベンダの要件も考慮する)</p> <p>注: 専用のデータベース サーバを使用することをお勧めします。</p>
Network Discovery Gateway	2 GHz の Dual-Core プロセッサが 1 つ
CCA グリッド サーバ	2 GHz の Dual-Core プロセッサが 1 つ
CA EEM サーバ	2 GHz の Dual-Core プロセッサが 1 つ
CA Business Intelligence	2 GHz の Dual-Core プロセッサが 1 つ

メモリとディスク領域

メモリとディスク領域のシステム要件は、以下の表で示すように、コンポーネントごとに異なります。

コンポーネント	メモリ (RAM)	ディスクの最小空き容量
CA Configuration Automation サーバ	<p>4 GB を推奨 (最小でも 2 GB)</p> <p>CCA Server のパフォーマンスを最適化するために、1.5 GB の Java 仮想メモリがデフォルトで割り当てられます。</p>	5 GB

コンポーネント	メモリ (RAM)	ディスクの最小空き容量
CA Configuration Automation データベース	8 GB 以上 ネイティブ データベース ベンダの要件を参照	100 GB (使用状況により異なる)
CA Configuration Automation エージェント*	10 MB	インストール要件 : <ul style="list-style-type: none">■ 170 MB は既存の Java VM を使用■ 300 MB は支給された Java VM を使用 ランタイム要件 : <ul style="list-style-type: none">■ 65 MB は既存の Java VM を使用■ 100 MB は支給された Java VM を使用
ネットワーク ディスカバリ ゲートウェイ *	2 GB 以上	2 GB
CCA Grid Server *	グリッド ノードの各インスタンスに 2 GB	5 GB
CA EEM サーバ	2 GB 以上	10 GB
CA Business Intelligence	2 GB 以上	C ドライブに 20 GB。合計 30 GB 要件の詳細については、BusinessObjects 製品のドキュメントを参照してください。

* これらのコンポーネントは同じサーバまたは仮想サーバにインストールできます。ただし、すべてのインストール要件を把握している必要があります。

インストールプログラムは、プログラムの内容を一時ディレクトリに抽出します（一時ディレクトリとは、Windows の TEMP 環境変数で指定されたディレクトリ、Linux および UNIX の /tmp ディレクトリ、または現在のユーザのホーム ディレクトリ）。抽出プログラムは十分な空き容量を確認します。インストールが正常に完了した後、またはキャンセルされた後、インストールプログラムで使用された一時ストレージは解放されます。

注: 専用の物理サーバとして構成されていると、データベース サーバのパフォーマンスは著しく向上します。データベース サーバのガイドラインについては、データベース管理者に相談してください。

Web ブラウザのサポート

CA Configuration Automation には、CA Configuration Automation サーバに対してデスクトップおよびサーバの両方からアクセスする Web ベースのインターフェースが含まれています。サポートされているブラウザは以下のとおりです。

- Adobe Flash のインストールされた Microsoft Internet Explorer 7、8、および 9
- Windows 7 上の Microsoft Internet Explorer 10、およびデスクトップモードの Windows 2008 および 2012

IE 10 では、Windows 上で以下のレポート形式がサポートされます。

- Windows 2008 および 2012 -- Crystal Reports 以外のすべてのレポート形式
- Windows 7-- すべてのレポート形式
- Mozilla Firefox 16
- Google Chrome 20

CA EEM サーバのサポート

CA Configuration Automation は CA EEM Server 12.51.0.4 で動作保証されています。

ストレージ エリア ネットワーク (SAN) マネージャ ソフトウェア

CA Configuration Automation は、以下のストレージ管理ソフトウェアと通信することにより SAN ストレージデバイスを検出します。

NetApp OnCommand (バージョン 4.0 以降)

NetApp ストレージシステムを検出します

注: NetApp OnCommand は、以前は DataFabric Manager サーバと呼ばれていました。

EMC SMI-S Provider (バージョン 4.4.0.0 以降)

EMC Clariion および Symmetrix ストレージシステムを検出します。

周辺装置

ローカルで接続されているか、ネットワーク経由でリモートアクセスが可能な DVD-ROM ドライブ、またはダウンロードされた DVD イメージをマウントする機能が必要です。

第 4 章：新しい機能および拡張機能

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA Configuration Automation 管理プロパティは、Catalyst グループに入力されます。](#) (P. 22)

[日付および時刻の形式の設定](#) (P. 22)

[一般的なユーザ インターフェースの拡張](#) (P. 22)

[IBM Storwize V7000 ストレージ デバイスの検出と管理に対応](#) (P. 23)

[IP アドレスのインポートでのワイルドカードとサブネット マスクのサポート](#) (P. 24)

[包含リストでターゲットにされているサーバだけへのネットワーク ディスカバリの制限](#) (P. 24)

[新規および更新されたブループリント](#) (P. 24)

[\[コンプライアンス\] タブで使用可能な新しいルール グループ](#) (P. 27)

[リモート エージェント インストールの変更点](#) (P. 27)

[サポートされている CABI バージョン](#) (P. 28)

[* と ? のサポート ファイル インジケータとしてのワイルドカード](#) (P. 28)

[CA Configuration Automation サーバ と CA Catalyst サーバの接続状態のテスト](#) (P. 28)

[Catalyst サーバ情報の表示](#) (P. 28)

[拡張されたログの表示](#) (P. 29)

[エラーが発生した CI を Excel スプレッドシートへエクスポート](#) (P. 29)

[WMI プロキシタイプによる、プロキシサーバを経由した CA Configuration Automation サーバおよびターゲットサーバ間の通信のサポート](#) (P. 29)

[WMI ディスカバリの制限](#) (P. 30)

[WMI プロキシおよび SSH プロキシのディスカバリの制限](#) (P. 30)

[WMI と Telnet ディスカバリの制限](#) (P. 30)

[ビジュアル ビューの拡張機能](#) (P. 30)

[\[サービス\] タブの \[サーバテーブル\] ビューの拡張](#) (P. 30)

CA Configuration Automation 管理プロパティは、Catalyst グループに入力されます。

CCA Connector のインストール中、CCA コネクタは、Catalyst グループ内の以下の属性に値を指定します。

- Catalyst Server
- Catalyst Port

日付および時刻の形式の設定

このリリースでは、製品 UI で異なる形式に日時を設定できます。[環境管理] リンクの下に [構成] タブで、以下のプロパティを更新し、CA Configuration Automation サーバを再起動します。

- `datepicker.date.display.format`
- `datetime.date.display.format`
- `datetime.time.display.format`

一般的なユーザ インターフェースの拡張

このリリースには、以下のような UI の拡張機能が含まれます。

- コンプライアンス ジョブの結果のサマリ チャート、ツリー ビュー、およびフラット テーブルには、合格したルールと不合格のルールの両方の情報が表示されます。
- [ツリー] ビューの新しい [合格したルール (重大度別)] ノードには、ルール コンプライアンス操作中に合格したルールが表示されます。
- [フラット テーブル] タブの [詳細] サブタブは、[コンプライアンス 詳細] に名前が変更されました。
- [コンプライアンス 詳細] タブには、合格したルールと不合格のルール、およびルールのステータスが表示されます。
- [フラット テーブル] タブには、[合計合格数] 列と [合計実行数] 列が追加されました。新しい列には、実行されたルールと合格したルールの合計が表示されます。[サービス]、[サーバ]、[ソフトウェア] の各サブタブには、新しい列が追加されました。

- 管理用の [コンプライアンス] タブの新しい [ルール例外] タブには、設定されたルール例外のリストが表示されます。
- [ルール例外] ページの [テーブルアクション] では、例外を追加することができます。また [アクションの選択] では、例外の管理と削除ができます。
- [コンプライアンス] 結果の新しい [ルール例外] タブには、選択したルールのサーバ例外とサービス例外が表示されます。
- [サーバ詳細] の新しい [ホスト名のエイリアス] フィールドには、IP アドレスに関連付けられているさまざまな名前が表示されます。
CCA サーバディスカバリは、複数の DNS エイリアスがあるサーバを調整し、検出されたサーバの正確な数を表示します。個別のサーバとして、サーバに関連付けられた複数のエイリアスは検出されません。
- [展開されたサーバ詳細] テーブル ビューの新しい [OS ファミリ] 列は、CCA サーバが管理するサーバのオペレーティング システムを表示します。
- [サーバテーブル] ビューに、ホスト名または IP アドレスを表示する、新しい [非修飾のサーバ名] 列が導入されました。ネットワーク内に複数のドメインとサブドメインが存在する場合、読みやすくするため、[テーブル ビュー] ではドメイン名が除外されます。
- 検出されたすべてのサーバのすべてのコンポーネントとアプリケーションを表示するため、[管理] セクションに新しい [ソフトウェア] タブが導入されました。
- アーカイブ済みログの表示と管理を行うため、[診断] タブに新しい [ログアーカイブ] タブが導入されました。
- [テーブル ビュー] の新しいページ サイズにより、[テーブル ビュー] に最大 900 行表示できます。

IBM Storwize V7000 ストレージ デバイスの検出と管理に対応

IBM Storwize v7000 SMI-S ストレージ デバイスが、CA Configuration Automation による検出と管理が可能になりました。

IP アドレスのインポートでのワイルドカードとサブネット マスクのサポート

ネットワーク プロファイルの包含リストで、インポート対象の IP アドレスで、IP アドレスのワイルドカード、IP 範囲、およびサブネット表記がサポートされました。

例：10.10.10.* または 10.10.10.? 10.10.10.{12-24} および 10.10.10.0/24。

包含リストでターゲットにされているサーバだけへのネットワーク ディスカバリの制限

このリリースには、ネットワーク スキャン ポリシー UI に対して、新しい [ディスカバリを通信関係のターゲット サーバに制限] オプションが導入されました。このオプションでは、通信関係で検出されたサーバが除外され、ネットワーク プロファイルの包含リスト内のサーバが検出されます。

新規および更新されたブループリント

このリリースには、以下の新規ブループリント、または更新されたブループリントが含まれます。

ブループリントの名前	コンポーネントバージョン	ブループリントバージョン
AIX (コンプライアンス ルールを含む)	[4 5].*	1.0.0
AIX 5.3 および 6.1 (コンプライアンス ルールを含む)	5.3 6.1	1.0.1
Apache 2 HTTP サーバ RPM (UNIX)	2.*.*	1.1.1
Apache 2 HTTP サーバ (UNIX)	2.*.*	1.1.1
Apache2 HTTP サーバ (Windows)	2.*.*	1.1.1
Apache2 HTTP サーバ (コンプライアンス ルールを含む) (UNIX)	2.2.*	1.2.0

ブループリントの名前	コンポーネント バージョン	ブループリント バージョン
Apache2 HTTP サーバ (コンプライアンス ルールを含む) (Windows)	2.2.*	1.1.1
Apache2 HTTP サーバ (コンプライアンス ルールを含む) (Windows)	10.*	1.1.1
Apache Tomcat サブレット エンジン	6.* 7.*	1.1.0
CCA サーバ	*.*	1.0.0
CA LISA	7.*	1.0.0
CA Service Operations Insight (CA SOI)	3.*	1.0.0
CA Siteminder ポリシー サーバ	12.5	1.0.0
CA SiteMinder セキュア プロキシ サーバ	12.5	1.0.0
CA SiteMinder Web エージェント	12.5	1.0.0
CA SiteMinder Web エージェント	6.*	1.0.0
CA Netegrity SiteMinder ポリシー サーバ	*.*	1.0.0
ColdFusion (Windows)	7.*	1.0.0
IBM DB2 データベース (UNIX)	10.*	1.0.0
IBM DB2 データベース (Windows)	10.*	1.0.0
IBM DB2 Universal Database (Windows)	*.*	1.0.0
IBM WebSphere 8 サーバ インスタンス	8.*	1.0.0
IBM WebSphere 8 プロファイル	8.*	1.1.0
IBM WebSphere 8 Application Server	8.*	2.0.0
IBM WebSphere 8 プロファイル	8.*	2.0.0
Microsoft SQL Server 2012	11.*	1.0.0
MSMQ	[2345].0	1.0.0
MSMQ ストレージ	[2345].0	1.0.0
Oracle - クライアント (UNIX)	*.*	1.0.0
Oracle - クライアント (Windows)	*.*	1.0.0
Oracle 8i Database (UNIX)	8.*	1.0.0

ブループリントの名前	コンポーネントバージョン	ブループリントバージョン
Oracle 8i Database (Windows)	8.*	1.0.0
Oracle 9i Database (UNIX)	9.*	1.0.0
Oracle 9i Database (Windows)	9.*	1.0.0
Oracle 9i Database (コンプライアンス ルールを含む) (Windows)	9.*	1.0.0
Oracle Database 10g (UNIX)	10.*	1.0.0
Oracle Database 10g (Windows)	10.*	1.0.1
Oracle Database 10g (コンプライアンス ルールを含む) (UNIX)	10.*	1.0.0
Oracle Database 10g (コンプライアンス ルールを含む) (Windows)	10.*	1.0.1
Oracle Database 11g (UNIX)	11.*	1.0.0
Oracle Database 11g (Windows)	11.*	1.0.1
Oracle Database 11g (コンプライアンス ルールを含む) (UNIX)	11.*	1.0.0
Oracle Database 11g (コンプライアンス ルールを含む) (Windows)	11.*	1.0.1
Red Hat JBoss Enterprise Application Server	7.1.*	1.0.0
Red Hat Linux 5.0 および 5.1 (コンプライアンス ルールを含む)	5.[0 1]	1.0.0
Ubuntu Linux	12.* 13.*	1.0.0
VMware ESX サーバ - 制限あり	*.*	1.0.0
VMware ESX Server 4 (コンプライアンス ルールを含む) (UNIX)	4.*	1.0.0
Windows Server フェールオーバー クラスタ	2012	1.0.0

[コンプライアンス]タブで使用可能な新しいルール グループ

このリリースでは、既存の CIS コンプライアンス サポートに対して、以下のコンプライアンス ブループリントに対する PCI コンプライアンス サポートが追加されます。

- Windows Server 2008 DM (コンプライアンス ルール v2008 r1.0.0 を含む)
- Windows Server 2008 DC (コンプライアンス ルール v2008 r1.0.0 を含む)
- Red Hat Linux 4.0 (コンプライアンス ルール v4.0 r1.1.0 を含む)
- Red Hat Linux 5.0 および 5.1 (コンプライアンス ルール v5.[0|1] r1.0.0 を含む)

[コンプライアンス] タブには、ブループリント更新の一部として、以下のルール グループが含まれます。

- PCI_DSS_V2.0_Windows_SRV_2008_DC
- PCI_DSS_V2.0_Windows_SRV_2008_DM
- PCI_DSS_V2.0_RHEL_4
- PCI_DSS_V2.0_RHEL_5

リモート エージェント インストールの変更点

リモート CCA エージェント インストールが完了した後、CCA エージェントがターゲット コンピュータの IP アドレスにバインドされます。CA Configuration Automation サーバテーブルからターゲット コンピュータの IP アドレスが取得されます。

サポートされている CABI バージョン

CA Configuration Automation サーバはアップグレードされ、CABI 3.3 SP01 と統合されます。

* と ? のサポート ファイル インジケータとしてのワイルドカード

ファイルインジケータに関するコンポーネントを見つけるには、[ルートからのパス] 値のディレクトリ名で * と ? ワイルドカード文字を使用します。

CA Configuration Automation サーバと CA Catalyst サーバの接続状態のテスト

[ジョブ] リンク内の [コネクタ ステータスのテスト] タブでは、CA Configuration Automation サーバと CA Catalyst サーバ間の CCA コネクタの接続状態をテストできます。サーバの接続状態には、以下のステータスが表示されます。

- 応答中 -- CCA コネクタは実行されています。
- 応答なし -- CCA コネクタは実行されていません。

Catalyst サーバ情報の表示

[診断] タブで、CA Configuration Automation サーバおよび CA Catalyst サーバの統合情報を表示できます。この統合情報を診断またはトラブルシューティングに使用することができます。[CCA 統合] タブは以下の属性をリスト表示します。

- Catalyst サーバ (HTTP ポート)
- Catalyst コンテナ サーバ
- catalyst.コンテナ ノード名
- Catalyst コンテナのバージョン
- コネクタのバージョン
- コネクタのノード名

拡張されたログの表示

このリリースでは、拡張されたサーバおよびテスト ディスカバリ ログを表示できます。このログは、インジケータ検索、実際に使われているコンポーネントルート、およびディスカバリからブループリントが除外された理由に関する情報を提供します。拡張ログは、ディスカバリ エラーを解決する方法に関する情報を提供します。

拡張されたログを表示するには、[環境設定] タブの [プロパティ] ページにある *discovery.extensive.log* プロパティを **True** に設定します。CA Configuration Automation プロパティの表示と設定を行う方法の詳細については、(CA Configuration Automation 管理者ガイド)を参照してください。

エラーが発生した CI を Excel スプレッドシートへエクスポート

Catalyst ジョブに対して、新しい [失敗した CI を Excel にエクスポート] アクションが導入されました。このオプションを使用すると、データを CA Catalyst にエクスポートしながら、選択した Catalyst ジョブの Excel シートに、失敗した CI をエクスポートすることができます。

WMI プロキシ タイプによる、プロキシ サーバを経由した CA Configuration Automation サーバ およびターゲット サーバ間の通信のサポート

このリリースでは、プロキシ タイプとして WMI を指定できます。WMI モードにより、プロキシ サーバを経由した CCA サーバとターゲット サーバ間の通信が簡単になります。

WMI ディスカバリの制限

WMI ディスカバリには、以下の制限があります。

- ターゲット サーバ名または IP アドレスがクラスタの名前または IP アドレスである場合、WMI ディスカバリはターゲット サーバでサポートされていません。その代わりに、ターゲット サーバがクラスタの物理ノードの名前または IP アドレスである場合、WMI ディスカバリが実行されます。
- WMI をプロキシ タイプとして指定する場合、WMI プロキシ サーバは Windows サーバでなければなりません。

WMI プロキシおよび SSH プロキシのディスクバリの制限

WMI プロキシ および SSH プロキシは、管理されたエンティティや、リレーショナル データベース管理の構成データを検出しません。

WMI と Telnet ディスカバリの制限

ターゲット サーバに対して、WMI または Telnet を使用してディスクバリを実行する場合、FTP パスワードに引用符 (") を含めないでください。含めると、ディスクバリは失敗します。

ビジュアル ビューの拡張機能

ビジュアル ビューでは、仮想サーバや物理サーバのモニタ、サーバの状態に関する情報の表示を行えます。

[サービス]タブの[サーバ テーブル]ビューの拡張

[サービス] タブの [サーバ テーブル] ビューに、選択したサービスに含まれるサーバに関する情報が提供されるようになりました。[選択されたサーバ グループ] フィールドに、直接的または間接的にサーバ グループを介したサービスに含まれるサーバが表示されるようになりました。

第 5 章：発行済みの修正プログラム

この製品の公開済みバグ修正の完全なリストは、<http://support.ca.com> の Published Solutions で見つけることができます。

第 6 章：各国語のサポート

国際化製品とは、所定のローカル言語版オペレーティング システムおよびサードパーティ製品上で正常に動作し、データの入出力においてローカル言語をサポートする英語版製品です。また、国際化製品は、日付、時刻、通貨、数値に関してローカル言語の書式をサポートします。

このリリースの **CA Configuration Automation** は、日本向けにローカライズされています。

第 7 章: ドキュメント

この製品には以下のマニュアルが含まれています。

管理者ガイド

CA Configuration Automation ユーザ インターフェース (UI) の [環境管理] パネルで使用可能なすべての機能の使用に関する詳細な手順が記載されています。また、CA Configuration Automation 構成ファイルを編集するための手順が含まれています。このマニュアルには CCA_AdminGuide_JPN.pdf という名前が付いており、CCA マニュアルのフォルダにあります。

ユーザガイド

CA Configuration Automation ユーザ インターフェース (UI) の [管理]、[ダッシュボード]、および [タスク] パネルで使用可能なすべての機能の使用に関する詳細な手順が記載されています。また、コマンドラインインターフェースを使用するための手順が含まれています。このマニュアルには CCA_UserGuide_JPN.pdf という名前が付いており、CCA マニュアルのフォルダにあります。

実装ガイド

NDG サーバ、CA Configuration Automation サーバ、CA Configuration Automation データベース、CA グリッド ノード、および CA Configuration Automation エージェントのインストールに関する詳細な手順が記載されています。また、BusinessObjects のレポート機能や CA EEM などほかの必須コンポーネントへのインストールに関する情報も含まれています。このマニュアルには CCA_ImplGuide_JPN.pdf という名前が付いており、CCA マニュアルのフォルダにあります。

コネクタガイド

CA Configuration Automation 用の CA Catalyst コネクタをインストールおよび設定する方法が記載されています。このマニュアルには CCA_ConnectorGuide_JPN.pdf という名前が付いており、CCA マニュアルのフォルダにあります。

メッセージ リファレンス ガイド

CA Configuration Automation での作業時に表示されるすべてのメッセージのリストが記載されています。また、メッセージが表示される理由および解決方法が含まれています。このマニュアルには `CCA_MessageReferenceGuide_JPN.pdf` という名前が付いており、CCA マニュアルのフォルダにあります。

リリース ノート

新機能、新しいブループリント、さまざまな CA Configuration Automation コンポーネントに対してサポートされる動作環境など、リリースに固有の情報が記載されています。このマニュアルには `CCA_RelNotes_JPN.pdf` という名前が付いており、ディレクトリの最上位レベルにある配付メディアにあります。

Readme

標準の製品マニュアルに含まれない既知の問題、回避策および臨時の情報が記載されています。製品を操作する前に、このファイルを閲覧してください。 `readme.html` ファイルには、Windows システムの場合は `dvd1` フォルダ、Linux または UNIX の場合は配付メディアのルートからアクセスできます。

オンライン ヘルプ

CA Configuration Automation サーバユーザ インターフェース (UI) で使用可能な機能すべての使用に関する詳細な手順が記載されています。ユーザ インターフェースの右上にあるヘルプ リンクから、オンライン ヘルプのトップ ページにアクセスできます。製品内の多くのページおよびダイアログ ボックスから、状況依存ヘルプを表示できます。

テナント UI ヘルプ

テナント UI からは独自のヘルプ システムを表示できます。テナント UI のインストールと設定の詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

注: PDF ファイルはプラットフォームやオペレーティング システムに依存せず、Windows、Linux および UNIX 環境で Adobe Acrobat Reader を使用して表示できます。

PDF ファイルを参照するには、Adobe の Web サイトから Adobe Reader をダウンロードしてインストールする必要があります (コンピュータに Adobe Reader がインストールされていない場合)。

付録 A: 使用条件

CA Configuration Automation マニュアル選択メニューは、この CA Configuration Automation リリースで使用するサードパーティ ソフトウェアの著作権および使用許諾契約が含まれている `CCA_TPSA.txt` という名前のテキスト ファイルにリンクしています。